

## 為替週間展望 = ドル円はもみ合いながら緩やかに上値を追う展開か

[4月24日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月17日～4月21日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	133.63	135.13(19)	133.63(17)	133.88	+0.09
ユーロ・ドル	1.0999	1.1000(17)	1.0909(17)	1.0940	-0.0052

  

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,564.37	+70.90	日本10年債利回り	0.468	-0.007
ダウ平均株価	33,786.62	-99.85	米10年債利回り	3.532	+0.019

<来週の主要経済統計等>

- 24日 英4月ライトムーブ住宅価格  
独4月ifo景況感指数
- 25日 米2月住宅価格指数、米2月S&Pケースラー住宅価格指数  
米3月新築住宅販売件数、米4月消費者信頼感指数
- 26日 NZ3月貿易収支  
豪3月消費者物価指数、豪第1四半期消費者物価指数  
米3月耐久財受注速報値
- 27日 日本2月景気動向指数改定値  
米新規失業保険申請件数  
米第1四半期GDP速報値  
米3月中古住宅販売制約指数
- 28日 日本3月雇用統計、日本3月有効求人倍率  
日本3月鉱工業生産指数、日本3月小売業販売額  
豪第1四半期生産者物価指数  
日銀金融政策決定会合(27～28日)・金融政策発表  
植田日銀総裁記者会見  
スイス3月小売売上高、スイス4月KOF先行指数  
独4月雇用統計  
独第1四半期GDP速報値  
ユーロ圏第1四半期GDP速報値  
独4月消費者物価指数  
米3月個人所得・支出、米第1四半期雇用コスト指数  
米4月シカゴ購買部協会景気指数  
米4月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】米国でのインフレ率の低下で、ドルは軟調な流れに傾いている。ドル円は今後の米経済指標などに左右されやすい流れが見込まれるが、利上げの終着点が見えてきたこともあり、上値の重い展開が続くとみられる。

【FRBによる利上げ継続観測広がる】

このころは、米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げ継続観測が広がっており、これがドル円の上昇につながっている。

14日に米連邦準備制度理事会（FRB）のウォラー理事は、「最近のデータは米金融当局がインフレ目標に向けて大きな進展を遂げていないこと示している」「より一層の金利引き上げが必要となる」「金融政策はかなりの期間、引き締めを維持する必要がある」と述べた。

ウォラー理事のタカ派的な発言に加えて、14日は4月のミシガン大消費者信頼感指数の1年先のインフレ期待が4.6%となり、予想の3.7%や前回の3.6%を大きく上回った。これらを受けて利上げ停止への期待感が後退したことが米長期金利の上昇やドル高につながった。

17日の4月NY連銀製造業景気指数はプラス10.8と市場予想マイナス18.0および前回のマイナス24.6から予想外の回復をみせた。この結果を受けて米債利回り上昇とともに、ドル買いの反応が広がった。米10年債利回りは3.604%前後まで上昇。この後も利回りは高止まり傾向にある。

18日にブロード米セントルイス連銀総裁は、最近のデータでインフレがなお根強く続いていることが示されたとし、利上げを継続する必要があるとの見解を示した。「政策金利を5.5～5.75%に引き上げるべき」「市場は近い将来の利下げを予想しているようだが、労働市場は力強く、下期にリセッションに陥ると予想する時期ではない」と述べた。ボスティック米アトランタ連銀総裁は、「あと1回の利上げが基本シナリオで、その後は据え置きに入ることを支持する」と述べた。

19日の英国の消費者物価指数は前年比+10.1%となり、事前予想の+9.8%を上回った。予想から上振れしたことで英中銀（BOE）による利上げ継続姿勢が意識されて英長期金利が上昇した。これに追随して米長期金利が上昇して、ドル円は堅調な推移を見せ、一時135円台に乗せた。20日には4月のフィラデルフィア連銀景気指数や3月の米中古住宅販売件数が予想を下回ったことで、ドル売りの反応となり、ドル円は134円後半から134円近くまで下落した。

CME FEDウォッチによると、5月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では政策金利据え置き確率が15%前後、0.25%の利上げ確率が85%前後となっている。6月に追加で0.25%の利上げする確率は23%前後に上昇している。

27～28日の日銀金融政策決定会合は、植田新総裁のもとでの最初の会合となる。新総裁として初回の会合でもあり、これまでの発言でも金融緩和姿勢の維持を表明しており、いきなり政策変更には動かないとみられる。ただ、今後の布石として、イールドカーブコントロール（YCC）の見直しなどの政策変更に言及、あるいは含みを持たせる可能性もある。その場合は円高へのバイアスがかりやすくなりそうだ。

FRB当局者のタカ派的な発言などを背景に利上げ継続観測が広がっており、これがドルの下値を支えるとみられる。一方で、日銀が政策決定会合で将来的な政策変更を示唆してくるようだと、円買いの動きに傾く可能性もありそうだ。こうした中、ドル円は底堅いながらも一気に大きく上値を伸ばせず、もみ合いながら緩やかに上値を追う展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、132.00～137.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、25日に米2月住宅価格指数、米2月S&Pケースシャー住宅価格指数、米3月新築住宅販売件数、米4月消費者信頼感指数、26日に米3月耐久財受注速報値、27日に日本2月景気動向指数改定値、米新規失業保険申請件数、米第1四半期GDP速報値、米3月中古住宅販売制約指数、28日に日本3月雇用統計、日本3月有効求人倍率、日本3月鉱工業生産指数、日本3月小売業販売額、日銀金融政策決定会合（27～28日）・金融政策発表、植田日銀総裁記者会見、米3月個人所得・支出、米第1四半期雇用コスト指数、米4月シカゴ購買部協会景気指数、米4月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

#### 【ユーロドルはもみ合いか】

14日にドルの軟調な動きから1.1076近辺まで上昇したものの、その後は利益確定の売りなどから下げに転じた。17日には4月のNY連銀製造業景気指数の改善でドル買いの動きとなり、1.0900近辺まで下落した。その後は1.09台での推移が続いている。

ユーロ圏でも消費者物価指数の高止まりから、欧州中央銀行（ECB）による利上げ継続姿勢は続くと思われる。一方で米国も利上げが継続されるとみられることから、ユーロドルは高値圏で一進一退のもみ合いが続くこととなりそうだ。ユーロドルの目先の

予想レンジは、1.0850～1.1100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、24日に英4月ライトムーブ住宅価格、独4月I F O景況感指数、26日にN Z 3月貿易収支、豪3月消費者物価指数、豪第1四半期消費者物価指数、28日に豪第1四半期生産者物価指数、スイス3月小売売上高、スイス4月K O F先行指数、独4月雇用統計、独第1四半期G D P速報値、ユーロ圏第1四半期G D P速報値、独4月消費者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。